



よむよむ

神川町立青柳小学校
学級懇談会 資料
図書室便り No.12

子どもが進んで読書をするようになるには

～本選びの5つのコツ～

青柳小学校では、年に3回の読書月間を設定し、子どもたちが本に親しみ、読書を好きになってほしいという思いで取り組んでいます。3学期の読書月間も残り数日となりました。たくさん本を読んで、おすすめの本を紹介してくれる児童もたくさんいます。しかし、「家では本を読んでいない」「高学年になっても絵本ばかり」など、保護者の声も聞かれます。そこで、今回は、本選びのコツを紹介します。自分に合った本に出会い、読書を通して心を動かされる経験をすれば、きっと新たな感動を求めて本を読むようになるのではないのでしょうか。

【1】子どもの興味のある本から

読書というと、名作や小説などを読んでほしいと思うかもしれませんが、しかし、子どもが興味をもっていないのに無理に読ませたり、作品のジャンルを限定したりすると、ますます読書を敬遠してしまう恐れがあります。普段はあまり本を読まない子ほど、興味のあることをキーワードに柔軟に本を選びましょう。例えば、スポーツが好きなら選手の自伝、お菓子が好きならレシピ本などでもよいと思います。何より、「本を読むのっておもしろい」と感じてもらうことを目指すとよいです。



【2】絵が多く、文字が少ない本から

読書習慣がない子どもにとって、文字ばかりの本には抵抗感があるものです。初めは絵本より文字が多い程度の本を選ぶと無理なく読み進められるでしょう。読書体験を積んで、次第に読む力がつけば、長い文章への抵抗感はなくなります。また、小説や絵本や漫画にした作品をもあります。まず絵本や漫画を手に取りおもしろかった小説にチャレンジするなど、最初のハードルを低くすることがポイントです。



【3】登場人物に感情移入できる本から

保護者の方も登場人物に感情移入して読書に没頭した経験があるのではないのでしょうか。自分と近い年齢の登場人物が活躍したり、努力したり、悩んだり・・・そんな共感しやすい作品を選べば、おのずと子どもも読書に入り込むはずです。



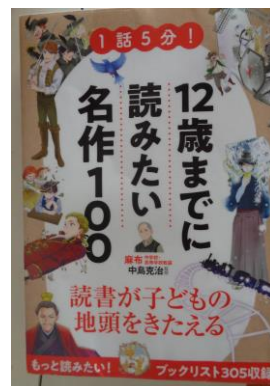
【4】さらりと読める短編集から

短編集は1話が短く、さらりと読めます。なので、読書が苦手な子どもにも入門としておすすめです。「どの話から読んでもいいよ」「おもしろくなかったら別の話を読んでみたら」などと伝え、できるだけ入り口のハードルを低くしましょう。読んだ本がおもしろかったら別の話も読んでみたくなるに違いありません。気に入った短編集の作者に長編作品がある場合、次はそれを勧めれば期待をもって読み始められるはずです。



【5】図鑑や百科事典を眺めるのも読書

図鑑や百科事典を通して知識を広げるのも立派な読書と言えます。子どもが好きな分野の図鑑や百科事典を眺めていたら、保護者の方も関心をもって一緒に楽しんでみてはいかがでしょうか。そうした興味を下地として、動物好きの子どもには動物が登場する物語、また動物を扱った科学本などを勧めると、どんどん興味が広がり、本の楽しさにも気づいてくれると思います。



ちなみに・・・

保護者のみなさんは、今年になって何冊本を読みましたか。忙しい日々の中で本を読む時間もなかなかもてないと思いますが、お家の方が少しの時間でも本を手にとっている姿を見ると、子どももおのずと本への興味がわいてくると思います。是非、親子で読書の時間を作ってみてください。